

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 28 年度

事業所番号	2774501155		
法人名	もみの木有限会社		
事業所名	もみの木のいえ		
所在地	泉佐野市羽倉崎3-8-5		
自己評価作成日	平成 28年 12月 22日	評価結果市町村受理日	平成 29年 3月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2774501155-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2774501155-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 29年 1月 30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が快適に過ごしていただけるよう、それぞれの生活スタイルや生活リズム合わせた支援を心がけています。また近隣の社会資源を有効に活かしつつ、利用者様に生きがいややりがいを感じていただきながら、楽しく過ごしていただける居場所作りにも取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「もみの木有限会社」が運営するグループホームです。地域福祉の充実をめざして開設、12年を迎え地域での存在感を高めています。職員は「明るく楽しく元氣よく」を理念として「ゆとりをもった生活」「自由にありのままの生活」「馴染みの生活」「喜びと生き生きとした生活」「安らぎのある生活」「地域社会との交流」を支援し、利用者・家族の希望に沿ったホーム運営をしています。利用者は自由にのびのびと、時には冗談を交わしながら、自分らしい時間を過ごしています。食を楽しむ支援として、調理スタッフを配置し、新鮮な食材を豊富に使って美味しい食事作りにも取り組んでいます。利用者はバーベキューを楽しみ、回転寿司やレストラン等、外食にも出かけ、体調が良ければ晚酌を楽しむこともできます。訪問看護ステーションと提携医師の協力により、24時間医療連携支援、看取り支援を行っており、利用者の体調に変化があればいつでも往診を受けることができます。地域や行政との連携が良く、職員の育成にも力を入れており、利用者が安心して暮らすことができるグループホームです。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	<p><b>○理念の共有と実践</b>            地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>職員の多数の入れ替えや、新管理者の就任等により、理念を共有しきれていない部分も多い。理念を共有又は再構築していけるように取り組んでいく必要がある。</p>	<p>「明るく 楽しく 元気良く」を理念としています。理念は「ゆとりをもった生活」「自由にありのままの生活」「馴染みの生活」「喜びと生き生きとした生活」「やすらぎのある生活」「地域社会との交流」の6項目に具体化して実践しています。理念は玄関や職員詰所等に掲示し、職員間で共有しています。理念を理解し実践を進めるために、職員一人ひとりが理念をイメージした標語を作成し、理念と共に掲示しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣住民の方には、運営推進会議への参加だけでなく、もみの木まつりや餅つき大会などにもご協力いただいている。また地域の防災訓練にもお声がけいただいたり、地域と交流させていただく機会は増えている。	地域のお祭りや防災訓練、敬老会等に参加して交流を深めています。ホーム主催の「もみの木まつり」や餅つき大会には近隣住民にも参加してもらい、利用者との交流を深めています。昨年は新たに地域交流を目的にした「Cafe もみの木」を開設し、インターネットで公表して地域交流に活かしています。認知症の理解を深めるために取り組まれている「オレンジカフェ泉佐野」にも参加しています。施設長は全国認知症啓発イベント「RUN伴」の地域実行委員として参画し、地域貢献にも力を入れています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	RUN伴(ラントモ)というイベントや、オレンジカフェ泉佐野への参加、Cafeもみの木の運営の開始など、認知症への理解が少しでも広がるようお手伝いさせてもらえるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p><b>○運営推進会議を活かした取り組み</b>            運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では様々な報告などをさせていただきながら、参加者の方からの意見も参考にさせていただいている。また避難訓練を同時に開催するなど、事業所の取り組みを感じていただけるようにしている。</p>	<p>運営推進会議は規程を定め、2カ月に1回年6回の開催をしています。メンバー構成は利用者・家族関係者、町内会役員、民生委員、地域ボランティア、市高齢介護課職員、ホーム職員等です。最近の会議ではホーム行事や利用者の生活状況、新管理者紹介、利用料金の改定、認知症啓発イベント「RUN伴」への参画、等を報告し話し合っています。また、会議に合わせて防災避難訓練を行い、緊急時の避難方法等を確認し共有してもらうなど、今後に向けて意見交換をしています。会議で出された提案や意見についてはホーム運営に活かしています。</p>	
5	4	<p><b>○市町村との連携</b>            市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>利用者の支援についての相談や、Cafeの運営についての相談など、必要に応じて市役所担当者と連絡をとるよう心がけている。</p>	<p>市の担当者とは日頃から情報交換を行い、利用者支援については成年後見制度の活用等、個別の相談もしています。また、市内の認知症サポーター養成講座、オレンジカフェ等、認知症についての理解を深める活動等に参画し協力関係を築いています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b>                      代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>日常の支援において、何が身体拘束になるのかをその都度職員に伝えながら、研修等においても資料を通じて理解してもらえるように努めている。</p>	<p>重要事項説明書に「身体拘束の制限」を明記し、緊急時を除いて身体拘束は行わない方針を明確にしています。職員には研修等を行い、身体拘束廃止についての理解を深め、身体拘束を行わない介護を実践しています。転落事故防止については、畳を利用した支援や低床ベッド等の検討を行い、利用者の状況に沿った支援をしています。玄関や門扉は施錠せず、鳴り物を付けて注意喚起し、利用者が安全に自由に出入りできるようにしています。</p>	
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b>                      管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体拘束と同様に、研修等を通じて虐待とは何かを理解してもらえるように努めている。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b>                      管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用している利用者様がおられるので、日々の生活において必要な知識を職員に伝えながら、後見人の方とも交流させていただいている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規の契約だけでなく、契約内容の変更があった場合にも、ご家族様等には文書によってご理解していただけるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の状態の変化など必要に応じてご家族様に連絡し、ご意見を聞かせていただけるように取り組んでいる。また他事業所等の方々にも対応して頂けるよう依頼し、より幅広い形でご要望に応えられるようにしている。	利用者の体調状況等は随時家族に報告し相談しています。家族の意見や要望は、面会時に担当スタッフが傾聴し、記録に残して職員間で共有し支援に活かしています。利用者の意向や要望は、日頃のかかわりの中から聞き取り、記録に残して支援に活かしています。職員は毎月利用者の状況を書面にして家族に送付し報告しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長及び管理者は、必要に応じて職員との面談をしたり、会議を開催したりしながら、その意見を反映できるように取り組んでいる。	施設長や管理者は、日頃から職員の意見を聞き、細やかな対応をしています。必要に応じて職員との個別面談を行い、共通する課題については職員会議等で報告し検討しています。会議等で出された意見や提案については職員間で合意を得てホーム運営に活かしています。職員の提案から様々な取り組みが実現しています。施設長は就業環境の整備についても職員の声を聞き改善しています。	施設長や管理者は職員の知識や技術のさらなる向上をめざして、今後さらに内部研修を充実し、外部研修への参加を増やす予定にしています。また、職員の資格取得についても、援助していく方針です。今後、取り組みの成果が期待されます。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務体制については、職員の状況等を勘案しながら、より適切な体制なるように検討中である。また手当等も変更し、より業務に取り組んでもらえるように取り組んでいる。		
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員自らが学びたい内容の研修を探してみたり、社内研修や外部研修にも積極的に参加し、より多くの知識や技術を習得できるように働きかけている。また職員が資格取得を目指している場合は、その講習や学校を紹介したり、勤務シフトも変更できるように働きかけている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会に参加したり、他事業所のイベントやカフェなどに参加させていただいたりしながら、多くの事業所の方々と交流できる機会を作るように取り組んでいる。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前にご本人様とお会いし、体験利用等で事業所の雰囲気にも馴染んでいただけるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まずご家族様に事業所へ見学にお越し頂き、事業所の雰囲気を知っていた上で、お話を伺いながら、スムーズに利用に繋がるように働きかけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前の情報をご家族等より教えていただき、面談や体験利用を通じて、ご本人の状態を把握し、提携機関とも連携をとりながら、よりよいサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の状況に応じて、家事を一緒に行ったり、他の利用者様をお互いに見守っていただいたり、生活を共にしているということを実感していただけるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には面会にお越し頂けるように働きかけ、通院等においては一緒に付き添っていただけるように声を掛けさせていただき、利用者様が少しでも長くご家族と過ごせる時間を作れるように努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p><b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b></p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>疎遠になっていたご家族との再会があり、それ以降は連絡を取らせていただいたりして、ご本人が安心してもらえる状況を作れるように努めている。また面会や外出等も自由にさせていただけるように働きかけている。</p>	<p>利用者へ面会者があれば湯茶の接待をしてゆっくり話ができるように支援しています。時には「Cafeもみの木」へ招待をして、外出気分での面会を楽しむこともあります。職員は利用者が馴染みのスーパーや旧居住地周辺散策、墓参り等にも出かけられるように、ドライブをする、家族の協力を得る、などの取り組みをしています。また、友人、知人、遠隔地の家族との関係が途切れないように、手紙や葉書を出したり、電話をかけたりの支援もしています。</p>	
21		<p><b>○利用者同士の関係の支援</b></p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>新たなテーブルの設置等により、その時の状況に応じて、座る場所を変えていただきながら、お互いの関係が悪化しないように配慮している。</p>		
22		<p><b>○関係を断ち切らない取り組み</b></p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>入院治療(退所)が必要になった方への病院への面会や、契約終了された方のご家族様への連絡など、それまでの関わりを切らないように心がけている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様には担当者グループを通じて定期的にアセスメントを実施している。またご家族様からお話を伺い、困難な場合もご家族様や他の専門職と連携しながら対応している。	利用者一人ひとりに担当職員を配置し、日々の関わりの中で思いや意向をさりげなく聞き取っています。聴力の低下等があり、言葉で確認できない場合には、筆記や表情で確認し、しぐさや行動等で察知するなどしています。困難な場合には家族、医師、看護職等、専門家とも相談しながら支援をしています。また、本人の思いを家族にも伝え、希望がかなえられるように支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様やご家族様よりお話を伺い、どのように生活されているのかを把握し、その生活環境に近づけるように工夫している。また必要に応じて契約前に利用されていた事業所様からも情報を提供して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録用紙を活用しながら、利用者様毎の日々の生活リズムを把握し、スタッフ同士がきちんと申し送りができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリング等を実施し、ご家族や医師、看護師等の専門職にも意見を聞かせていただきながらカンファレンスを実施し計画を作成している。また状態の著しい変化があった場合もカンファレンスを開催し、必要に応じて計画を変更している。	介護計画書は担当職員を中心に、利用者、家族の意向を聞き取り、職員間でアセスメントを行い、サービス担当者会議で検討して作成しています。必要時には医師、看護職、理学療法士等の専門職と家族の参加を得て話し合いをしています。介護計画書は実施記録を残して、3カ月毎にモニタリングを行い6カ月毎に見直しをしています。必要時には随時見直しを行い、現状に即した支援をしています。	施設長や管理者は職員が決められた仕事に追われるのではなく、利用者がその時求めている支援を最優先できるように、介護計画を策定し職員間で取り組みを進める予定にしています。今後、取り組みの成果が期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況を個人別に記録し、全職員が確認できるようにしている。また提携機関との情報も共有できるように別途ファイルを作成し、職員が把握できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	調理員を採用し、調理のみに取られていた時間を少しでも利用者様と関われるように対応している。また看取りや外出支援など、提携機関や他事業所とも連携をとりながら、様々な状況に対応できるように努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p><b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護事業所との提携により、週2回の訪問看護と緊急時の24時間対応を依頼している。また日常的な対処方法などを指導してもらったり、緊急時の医師への連絡や、ターミナルケア時における対応など、医療面での支援を全面的にサポートしていただいている。</p>		
32		<p><b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>ご家族と共に入院先の病院関係者と情報交換を行い、退院後の受入態勢などを伝えたり、相談に努めている。入居予定の方の退院後の入居についても、病院関係者と情報交換や相談をしながら、安心して入居していただけるように努めた。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>訪問看護や医師等の連携を強化し、入居時にもご家族には看取りや終末期についての説明をしている。また利用者様の状態の変化があるたびに、ご家族や医師、看護師、スタッフ等と話し合う機会を設け、看取り後もご家族様も含めて振り返る機会も設け、その後も活かしている。</p>	<p>看取り支援マニュアルを作成し、入居契約時には「利用者家族の希望に沿って可能な限り支援を行う」という終末期支援の方針を説明しています。重度化した場合には利用者家族の意向を再度確認し、医師、看護職、理学療法士等と連携し、家族と相談しながら支援方針を決めています。利用者・家族の希望を尊重し、24時間医療連携体制をとりながら、最近にも看取り支援を行った経験があります。看取り支援終了時にはカンファレンスを行い、家族の意見等も記録に残して、今後活かすよう取り組んでいます。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時対応マニュアルを設置すると共に、利用者様の体調の急変時には看護師への連絡等、直ちに対応できるような態勢を整えている。</p>		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p><b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害対策マニュアルを設置している。また定期的な火災の避難訓練を実施したり、地域の防災訓練にも参加し、地域との関わりも含めて対応できるようにしている。</p>	<p>災害対策マニュアルに沿って、消防署と連携し、年2回の防災避難訓練に取り組んでいます。2016年度は運営推進会議に合わせて1回目を実施し、2回目は年度末に実施する予定です。ホームでは地域防災訓練にも参加して、地域との協力関係を進めています。ホームの立地が海拔3メートルという状況から、水害の際はホーム隣接建物の3階部分、もしくは屋上に避難する計画を立てています。災害時に備えてホーム内に水や食品等を備蓄しています。</p>	
<b>IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	<p><b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者様のそれまでの生活や思いを大切にしたいと、利用者様同士も尊重しあえる環境を作りつつ、お一人の時間も守れるように対応している。</p>	<p>ホームでは利用者一人ひとりの生活スタイルを大切にしています。職員の都合を優先せず、利用者一人ひとりに合わせた起床時間や食事時間等を尊重しています。職員は利用者を人生の先輩として尊重し、言葉かけはやさしく、プライバシーに配慮した対応をしています。アルコール等の嗜好品についても、利用者話し合い時間や数量を決めて提供しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に自由に表現してもらえる環境を整え、その思いや希望を叶えられるように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から就寝まで、利用者様それぞれのペースで過ごしていただいている。入浴や食事もその日の気分や体調に合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様それぞれの好みに合わせて、服なども選んでもらったり、身だしなみを整えていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の希望に添えられるように食事を提供させていただいたり、準備や片付けも利用者様の状態に合わせて、一緒にしていただけるように対応している。	食を楽しむ支援として、調理スタッフを配置し、新鮮な食材を豊富に使って美味しい食事作りに取り組んでいます。職員は利用者と一緒に献立を考え、利用者の得意なことで食事作りに参加してもらおうよう支援しています。職員と利用者はできたての料理を一緒に味わい、冗談を交わしながら食事時間を楽しんでいます。利用者の希望に沿ってバーベキューを楽しみ、回転寿司やレストラン等、外食にも出かけています。利用者は体調が良ければ晩酌を楽しむこともできます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全利用者において食事量や水分摂取量を記録している。水分接種制限のある方や体重増加傾向にある方については、医師や看護師等に相談しながら適時対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や食後の口腔ケアを促し、義歯の方には就寝前に義歯の洗浄等もやっている。また訪問歯科も利用し、口腔ケアについての指示があれば対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様それぞれの状態に合わせて、排泄支援をしている。また日中や夜間などその時の状況に合わせて、必要な排泄支援をしている。	利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、声かけ、トイレ誘導を適切に行っています。夜間でも紙オムツに頼らず排泄できるよう、ポータブルトイレを使用するほか、頻尿の利用者をトイレに近い部屋に移し、移動の負担を軽減した事例があります。2カ所あるトイレの1カ所には洋式便器のほか男性用小便器を備えています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や看護師の指示を仰ぎながら、服薬や水分摂取、座位保持や軽い運動等などを取り入れながら対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を希望された時に入っていたできるように支援している。また入浴を拒まれる方に対しては、その方に合った方法を考慮しながら対応している。	希望者には毎日でも入浴できる体制を整え、希望があれば同性介助にも対応しています。二人介助や福祉用具を活用して、重度化した利用者でも安心して浴槽に浸かれるよう取り組んでいます。入浴が楽しめる工夫として、柚子風呂等に取り組み季節感を取り入れています。	ホームでは浴室の窓外にある屋外空間を活かして、利用者が入浴時に眺めて楽しめるような緑化計画をしています。今後、取り組みの成果が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している	利用者様が休息されたい時は いつでもお部屋で休んでいただ けるように対応している。また 介助が必要な方に対しても、 声掛けや表情を確認しながら 休んでいただけるように支援 している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる	薬ファイルを作成し、利用者様 が服用している薬を把握し、 確認できるようにしている。ま た体調の変化などがあれば、 医師や看護師に相談しながら 対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、 嗜好品、楽しみごと、気分転 換等の支援をしている	利用者様の希望に応え楽しんで いただけるように、外出や買 い物、手芸や小物づくりなど に取り組んでいただけるよう に支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。又、 普段は行けないような場所 でも、本人の希望を把握し、 家族や地域の人々と協力し ながら出かけられるように 支援している	外出を希望された場合は、 可能な限り支援させていただ いている。また事業所の買 い物への付き添いや、カフェ への参加、また地域のイベ ントへの参加など、様々な 形で外出していただける ように支援している。	ホームでは積極的な外出支 援をしています。利用者は 日常的に職員と一緒にス ーパー等へ買い物に出かけ たり、外食を楽しんだりし ています。また、すぐ近く にある同法人建物内に開 設した「Cafeもみの木」へ 出向き、地域の人たちと の交流を楽しんでいます。 年間行事では、職員が運 転する車でお花見などの 季節行事や、地域のイベ ント、誕生祝いの会食等 に出かけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご希望に応じて金銭をお預かり、管理させていただいている。また買い物時には金銭を使っていただけるように対応し、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族への電話やお手紙の送付など、ご希望に応じて対応している。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチンやリビングをリフォームし、より快適に過ごしていただけるようにした。また新たなテーブルの設置等により、過ごしやすい環境を作れるように対応している。また可能な限り清潔を保持できるようにしている。	ホーム内は清潔で適温に保たれています。2016年には台所や食堂兼リビングをリフォームし、食卓セットを一新しました。対面式台所に生まれ変わった明るい食堂では、おいしそうな匂いが立ち込め、野菜の刻む音に交じて利用者と職員の会話や笑い声が聞こえます。リビングの一角にある畳の間に横になって日中を過ごす利用者もおられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング等のテーブルについては、何か所かに分けて配置し、気の合う利用者様同士で座っていただいたり、逆に合わない方同士には別々のテーブルに座っていただいたりしながら、過ごしやすい状況になるようにしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お仏壇やご家族の写真、家具など、ご自身にとって馴染のあるものを置いていただけるようにして、それまでの生活に近い環境で過ごしていただけるように配慮している。	居室には介護ベッドを備えています。利用者の身体状況や希望に応じて畳の上に布団を敷いている居室もあります。利用者はテレビや家具、仏壇、ぬいぐるみ、茶道具、カメラなどを持ち込んで自由に使っています。職員は利用者一人ひとりの好みや特徴を捉えて手作りした人形や似顔絵を居室の随所に掲示して、利用者の居室を分かりやすく工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態に合わせて、ベッドではなく畳を設置したり、介助用ベッドを導入したりしている。また歩行器等の福祉用具も活用しながら、安全に過ごしていただけるような環境を作るように心がけている。		